

介護福祉士養成教育における社会人基礎力の育成（2）

－介護実習において育成される社会人基礎力－

The Promotion of Social Human Power in Care Worker Education（2）

－The Promotion of Social Human Power Member Cultivated by Care Work Practice－

奥田 眞紀子 松本 しのぶ*

OKUDA Makiko MATSUMOTO Shinobu

本論文では、本学の介護福祉士養成課程（1年課程）における介護実習に関する教育プログラムの具体的な内容と、社会人基礎力の関係を分析し、それぞれのプログラムに必要とされる社会人基礎力の検証を行った。その結果、課題発見力をはじめとする「考え抜く力」に意識して育成していることが特徴とわかった。また、育成する方法として推奨される教育内容は、①課題解決型学習サイクルの教育プログラムがさまざまな場面で繰り返されている ②対象と目的の異なる課題解決型学習サイクルが二重構造になっている ③人とかかわり生活の質を追求するという課題である、という結論を得た。

キーワード：社会人基礎力、教育プログラム、介護福祉士養成課程、介護実習、課題解決型学習

Key Words：Social human power, Education program, Care worker training course,
Care Practice, Project based learning

1. 本稿の研究目的

筆者は、本学の介護福祉士養成課程（1年課程^{注1}。以下「専攻科」と記す）の学生たちが、経済産業省の提唱する社会人基礎力を構成する3つの力である「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」と、「実行力」「課題発見力」「傾聴力」等の3つの能力を構成する12の能力要素の存在に触れたとき、この力や要素をすべて発揮しないと介護実習の目標は達成できないと話すのを耳にした。このとき、介護福祉士の養成課程における教育内容や方法は、資格取得という目的とともに、社会人基礎力を育成しているのだということに気づかされた。さらに、諏訪の述べる「社会人基礎力に安直な強化策はない。本を読んだり、講演を

聞いたりしても、その種の能力が大事という事情がわかるだけで、能力を体得することはできない。日常生活において人びとと交わり、何事かを行いつつ、自ら経験し、失敗を繰り返しながら、困難を乗り越える方策を自分なりに工夫し、体で覚えていくほかはない性質にある。社会へ出てから仕事を通じて繰り返し経験することで真に身につく可能性が高い能力である。社会的に、つまり人と人とのかかわりのなかで、能力開発がなされる性質のものである。」²⁾ という内容からも、まさしく社会人基礎力は、人とかかわり、その人の生活の質を追求するという介護実習の体験によって培われる力であると確信を得た。

これらのことから学生は、経済産業省主催の社会人

*種智院大学 人文学部社会福祉学科

基礎力グランプリ2009に出場することを決め、介護実習を中心に1年間の学びの過程をまとめ、「人とかわかることによる成長—介護現場での実践をとおして—」というテーマで発表した。その内容は、第1段階から第3段階までである介護実習のそれぞれの取組みの中で出会った利用者とかかわりに対し、自分たちがどのように考え、悩み、工夫して問題を解決し、さらには利用者の方々から勇気やエネルギーをもらって成長してきたかを対話形式でまとめたものであった。そして、この取組みが社会人基礎力の育成に寄与していると評価され、出場大学40校の中から準グランプリと会場特別賞に選ばれ、同時受賞を果たした。

本稿では、本学専攻科における介護実習に関する教育プログラムの具体的な内容と社会人基礎力の関係を分析し、それぞれのプログラムに必要とされる社会人基礎力およびその育成方法を示唆することを目的とする。

2. 介護実習に関する教育プログラムの具体的な内容と社会人基礎力の関係

1) 本学専攻科における介護実習の到達目標

介護福祉士養成課程(1年課程)における介護実習は210時間が義務づけられているが、本学専攻科では、320時間の実習時間を確保している。介護実習は3段階に分けて集中的に行い、各段階の到達目標は以下のとおりである。

第1段階実習：(実習時間：5日間(40時間)
実習時期：5月)

(1) 介護実習前に行われるもの

介護実習前に行われるプログラムとして、①実習目標の作成、②実習オリエンテーションの2つがあげられる。

① 実習目標の作成

教育プログラムの内容	必要とされる社会人基礎力
各段階実習における到達目標を達成するための個人の实習目標を作成し、到達目標を意識する姿勢を持ち、自ら学び取る意識を高めることを目的とする。指導は教員との面接形式で行い、実習目標の内容は以下の3点を重視する。 ・実習の到達目標が適切に理解されているか。 ・自己の課題を意識しながら実習目標の設定が行われているか。 ・実習の目的を達成できるための行動の道筋が具体的に表現されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習到達目標という課題と、現在の自己の課題を融合させ、実習における課題を明確にする「課題発見力」 ・自己の課題に対して、到達する道筋を考え、明確にする「創造力」「計画力」 ・実習目標を作成するという課題への取組みを自ら積極的に進める「主体性」

- ・実際のかかわりとおしてコミュニケーションの意義と必要性を理解し、コミュニケーションにおける自己の課題が発見できる
- ・他者に共感し相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける

第2段階実習：(実習時間：15日間(120時間)
実習時期：8～9月)

- ・あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する
- ・介護過程の展開におけるアセスメントを実践し、利用者の生活課題が理解できる

第3段階実習：(実習時間：20日間(160時間)
実習時期：1～2月)

- ・介護過程の展開をとおして、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける
- ・他の職種の役割を理解し、チームに参画する能力を身につける
- ・人権擁護の視点、職業倫理を身につける

2) 介護実習に関する具体的な教育プログラムの内容およびそのプログラムで必要とされる社会人基礎力

本学専攻科における介護実習に関する教育プログラムは、大きく分けると(1)介護実習前、(2)介護実習中、(3)介護実習後に行われるものがある。以下では、それぞれのプログラムの内容と、それらの達成に必要なとされる社会人基礎力について分析し、表にまとめた。

② 実習オリエンテーション

教育プログラムの内容	必要とされる社会人基礎力
<p>施設の概要や実習の流れを理解し、実習までに必要な課題に気づき、準備を整えることで、実習内容が充実することを目的とする事前訪問を行う。そこでは、実習指導者と面接し、以下のことを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者より施設の概要や実習の流れの説明を受ける。 ・個人の実習目標を提示し、その内容を伝える。 ・施設で守るべきルールを知る。 ・職員の職種や役割を知る。 ・利用者の生活環境を見学する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の説明を受けるだけではなく事前に何を質問すれば実習を効果的に実施できるかを考え伝える「発信力」 ・説明や見学の内容から、自己の課題を見つけ、準備しようとする「課題発見力」「計画力」

（2）介護実習中に行われるもの

介護実習中のプログラムとして、③日々の実習（1日の流れ）、④介護過程の展開、⑤カンファレンスの3つがあげられる。

③ 日々の実習（1日の流れ）

教育プログラムの内容	必要とされる社会人基礎力
<p>実習開始前（実習目標達成のための1日の目標設定） 実習開始前には、実習全体を通して実習目標が達成されるためのその日の意義を意識し、現在の自己の課題を明確にしつつ、1日の実習目標の設定を行う。そして、目標達成のための行動予定とともに、実習記録に記入する。</p> <p>実習開始時（実習目標の伝達および実習実施の準備） 実習開始時には、その日の実習目標を実習指導者に報告し、目標達成のための行動予定を伝達する。さらに、かかわる利用者に応じて、実習指導者以外のスタッフに対しても実施の依頼を行い、その日の実習を実施するための準備を行う。</p> <p>実習中（各実習場面における介護過程の展開） 実習中は利用者とのかかわりが主な実施内容となり、その実施は、以下のような介護過程に沿って展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心身の状況把握のための情報収集を行い、その内容を分析し、解釈・関連づけ、統合化によって根拠を明確にし、利用者の生活課題を導き出す「アセスメント」 ・心身の状況にあわせた介護の方法を、その根拠とともに考える「計画の立案」 ・アセスメントと立案した計画を実習指導者に伝えた上で、指導者が行う場面の見学から行い、指導者の立会いのもと利用者に対するかかわりを実践する「実施」 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習全体を意識した上で、現在の自己の課題を明確にできる「課題発見力」 ・課題の解決につながる方法を考える「計画力」 ・スタッフが忙しそうで声がかけにくい、自信がなく実施を申し出ることをためらう等さまざまな思いが交錯する中で、思い切って申し出る「前に踏み出す力（主体性、働きかけ力、実行力）」「発信力」 ・伝達のタイミングや時期、最も適切な依頼のルートを見極める「状況把握力」 ・学生からかかわりを求めていく「前に踏み出す力」「発信力」 ・利用者の立場になってその言動の意味を考える「柔軟性」 ・利用者を取りまく他者との関係性を理解する「状況把握力」 ・ありのままの思いを受け止めようとする「傾聴力」

<ul style="list-style-type: none"> • 実施が心身の状況に本当に適していたのか、利用者が心地よいと感じたか否か、それは何を根拠に判断したのか、利用者に適していなければそれはなぜか、そこにある課題は何か、次はどのような取組みが必要か等について振り返る「評価」 • 必要があればアセスメントに戻り、このプロセスの繰り返しによって利用者の生活課題に近づく。 <p>実習終了後（実習記録による振り返り）</p> <p>実習終了後は、必ず実習記録による振り返りを行う。その内容は、以下のとおりである</p> <ul style="list-style-type: none"> • その日の実習目標に即した場面や、学びが深い場面を取り上げる。 • 情報をもとにアセスメントを行い、計画し、実施した内容およびその実施に対する利用者の言動を詳細に思い起こし記載する。 • 利用者の様子から実施を評価し、介護の課題を見出す。 • 課題を解決できる方法とその根拠を明確にし、翌日の実習で実施できる内容の提示を行う。 • その場面の学びをまとめ、学びに至った理由を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 利用者の生活課題に対し取り組む方法を創造し、計画し、実行していく「課題発見力」「創造力」「計画力」「実行力」 • 利用者との約束や実習の進め方に対するルールを遵守する「規律性」 • 実践での失敗や様々な助言を学びに変えることが出来る「ストレスコントロール力」 <ul style="list-style-type: none"> • 改めて実習を思い起こし、振り返り、場面を再構成し、自己の学習課題および利用者の生活課題を見出す「課題発見力」 • 課題の解決方法を見出す「創造力」 • 解決方法をもとに、その実施内容を明確にする「計画力」
---	---

④ 介護過程の展開

介護過程の展開は、第2段階、第3段階実習で、一人の担当利用者を対象として実施する。第2段階実習では、アセスメントを行い、利用者の生活課題が理解できるという到達目標を設定している。第3段階実習では、アセスメントに加え、計画の立案、実施、評価、再アセスメント、計画の修正、実施を繰り返すことで、利用者の生活課題の解決と実現が到達目標である。

教育プログラムの内容	必要とされる社会人基礎力
<p>アセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> • 担当利用者の身体的特徴、精神・心理的特徴、社会的特徴をとらえ、その人らしさが培われてきた背景を理解するための情報収集を行う。 • 情報収集の方法は、①実際のかかわりや援助、直接観察したことから得る情報、②計測できる値や判断の伴わない客観的な情報、③各専門職が行う記録からの情報、④利用者を取りまく人（家族、友人、各専門職等）からの聞き取り等がある。 • 収集した情報を総合的に関連づけ、こころとからだのしくみを土台とした介護の専門的な知識で分析し、生活課題を導き出し、さらにその根拠を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自ら積極的に情報収集しようとする「主体性」 • 情報収集の目的を明確にし、内容を考え、その内容が伝わりやすいコミュニケーション方法を選択し、かかわるために適切な時間やタイミングを見計らうことができる「働きかけ力」「実行力」「発信力」「状況把握力」「柔軟性」 • 利用者のさまざまな思いに触れるために話を聴く「傾聴力」 • 情報を解釈し、関連づけ、統合化できる「創造力」 • 情報の分析から、生活課題の明確化を行う「課題発見力」

教育プログラムの内容	必要とされる社会人基礎力
<p>計画の立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントによって導き出した生活課題の解決や実現のための目標を設定し、計画の立案を行う。 ・計画書には、計画を実施する事前事後の観察項目、実施の時間、環境の設定、準備物、声のかけ方、配慮する点等、立案者だけでなく、誰もが実践できる具体的な記載を行う。 <p>実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護計画の実施は、実習指導者の了解のもと行う。 ・実施前には、他の利用者、家族等への配慮を含め、さまざまな状況を想定した周知の準備を行う。 ・安全かつ利用者主体で行う。 ・実施後には、実施した内容と、それに対する利用者の様子を詳細に記録する。また、その計画の実施が生活全体にどのような影響を及ぼしたのかについて観察する。 <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施後、利用者の生活課題の解決や実現に近づいているかを、実施内容と利用者の状況から評価する。 ・評価を基に、介護過程のプロセスのいずれに改善が必要かを考察し、その部分から再度展開を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活課題の解決や実現のために、既存の発想にとらわれずその方法見出す「創造力」 ・根拠を明らかにした計画の内容を示すことができる「計画力」 ・周到な準備を行った上で、失敗を怖れず実施する「主体性」「実行力」 ・他の実習生や施設職員等のチームへの協力を求める「発信力」「働きかけ力」 ・安全に行うため環境への配慮や利用者の状況に応じて対応する「状況把握力」「柔軟性」 ・利用者主体で行うためにどのようなときにも利用者の思いに耳を傾ける「傾聴力」 ・利用者とのかかわりや実習の進行に対し、ルールやマナーを遵守する「規律性」 ・予測した結果とは異なる場合でもそのことを学びに変えようとする「ストレスコントロール力」 ・実施を評価し、実施における価値を見出す「創造力」 ・介護過程のプロセスに改善が必要かを考察し、課題を見出す「課題発見力」

⑤カンファレンス

教育プログラムの内容	必要とされる社会人基礎力
<p>実習におけるカンファレンスは、それまでの実習を目標にそって振り返り、出席者との意見交換や助言により、自己の課題を明確にし、以後の実習や次段階実習での学びを深めることを目的とする。その内容は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数は、中間と最終の2回、必要時は適宜行う。 ・出席者は、実習生、実習指導者、必要時はその他の施設職員、巡回担当教員である。 ・学生が司会・書記を務め主体的に進行する。 ・カンファレンスの主な内容は、学生の個人発表と質疑応答、出席者間の意見交換、実習指導者および巡回担当教員の講評である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レジュメを適切に用いて、自分の意見を適切に伝える「発信力」 ・実施方法や進行を決め、カンファレンスを運営する「チームワーク」 ・学生の発表や参加者の話に耳を傾け、学びにつなげる「傾聴力」 ・意見や助言を受けることによりストレスを感じるがあっても、成長の機会だとポジティブに捉え、学びに変えることのできる「ストレスコントロール力」

<ul style="list-style-type: none"> ・学生の発表内容は、「実習目標の達成度および自己の課題」「介護過程の展開の経過および結果」「実習で強く感じたこと・学んだこと」であり、カンファレンス用レジュメとしてまとめ、参加者に配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の準備過程、カンファレンスでの意見や助言から、自己の課題を発見し、次の実習へつなげる「課題発見力」「計画力」
---	---

(3) 実習終了後の行われるもの

介護実習後のプログラムとして、⑥実習全体に対する自己評価、⑦実習報告会、⑧修了論文の作成および発表の3つがあげられる。

⑥ 実習全体に対する自己評価

教育プログラムの内容	必要とされる社会人基礎力
<p>実習終了後、実習全体を項目ごとに5段階で評価する。数値を記入するだけでなく、その数値の根拠を所見欄に記入し、客観的に自己の課題を明らかにすることを目的とする。評価項目は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護技術：介護の技術を習得することができる。 ・実習態度：学習者として望ましい取組みが行える。 ・コミュニケーション：利用者への適切な対応・傾聴・受容を行うことができる。 ・チームワーク：役割分担を行い協調性をもって取ることができる。 ・実習記録：適切な表現で観察した事項と考察を記録することができ、記録を通して自己の行動を振り返ることができる。 ・資質：介護福祉士としての責任感・強調性・積極性思いやり・学ぶ姿勢など、これらを認めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的に自己の実習内容を評価し課題を明確にする「課題発見力」

⑦ 実習報告会

教育プログラムの内容	必要とされる社会人基礎力
<p>1段階、2段階実習終了後、学生、巡回担当教員、出席が可能な教科担当教員や卒業生が参加し、実習報告会を実施する。報告内容は、具体的な実習場面をあげ、自己の学びと課題を考察した過程と結論のまとめである。報告会の目的は以下にとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠に基づき自己の学びと課題を明確にする。 ・実習場면을共有する。 ・共通の課題について議論し、介護福祉士として学ぶべき知識や技術を明確にする。 ・明確化された課題から、学習意欲の向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習場면을専門職の視点をもって分析し、そこからの学びと課題を導き出す「創造力」「課題発見力」 ・報告内容が参加者に適切に理解される発表を行なう「発信力」 ・学生の発表や参加者の話に積極的に耳を傾け、議論に参加する「傾聴力」「主体性」 ・報告会での学びを次の学習につなげる方法を考える「計画性」

⑧ 修了論文の作成および発表

教育プログラムの内容	必要とされる社会人基礎力
<p>3段階実習および1年間のまとめとして、介護過程の展開で担当</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職の視点で考え抜き、実施内容を検

<p>した利用者についての事例研究論文を作成し、発表する。その目的と内容は以下のとおりである。</p> <p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の展開の経過についてまとめ、実施した介護の有効性を検証する。そこからさらに考察を深め、介護の価値を創出する。 ・介護をどのように捉えるのか、介護福祉としてどうあるべきかを考え、自己の介護観の確立を図る。 ・学会発表の形式に準じた場での発表を体験することで、専門職として学び続ける意識を高める。 ・パワーポイントを活用し、他者に伝わるプレゼンテーションの方法を学ぶ。 <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文は、主査・副査の教員2名が主に指導し、他学生との議論も有効に活用しながら作成する。 ・発表練習（発表時間を厳守した原稿の作成、聞き手に伝わりやすい話し方、質疑応答の対応）を行う。 ・発表会の役割（司会、書記、会場係、受付）を理解し、会場設営を行う。 ・発表会には、卒業生や実習指導者、施設職員、本学教職員等が参加し、質疑応答が行われる。 	<p>証し、有効性や課題を明確にする「課題発見力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職としての価値を創造し、具体的に示す「創造力」「計画性」 ・論文や発表資料の作成、発表という課題に対し、自ら学び取ろうと取り組み、必要な人材の力を求め、作り上げていく「主体性」「働きかけ力」「実行力」 ・論じたい内容を明確に適切に他者に伝える「発信力」 ・他者の意見を丁寧に聴き、その内容を受け入れ、理解しようとする「傾聴力」「柔軟性」 ・発表内容から判断し、より内容の深まる質疑ができ、明確な応答ができる「状況把握力」 ・原稿の提出期限や、発表時間および方法を遵守する「規律性」 ・論文作成や発表の過程において、指導や指摘を受けた場合でも学びに変えることができる「ストレスコントロール力」
---	--

3) 介護実習に関する教育プログラムで育成される社会人基礎力—どの社会人基礎力がどのように育成されるのか—

本学専攻科で行われている介護実習に関する教育プログラムにおいて、その目標を達成するために必要な能力に関係する社会人基礎力について、それぞれのプログラムごとに、必要とされる能力を○、特に必要とされる能力を◎で示したものを表1にまとめた。

表1をもとに、介護実習に関する教育プログラムにおいて、どの社会人基礎力が必要であり、育成されているかを検討すると、以下のように分析される。

社会人基礎力の能力要素別にみると、◎の数では、課題発見力が最も多く、次いで、創造力、計画力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性と続き、「考え抜く力」の能力要素を意識していることが特徴的である。

課題発見力をはじめとする考え抜く力は、介護の実践や利用者の生活全体を分析し、その課題を発見し、その価値を創出する場合や、導き出された課題の解決もしくは実現する方法を抽出する場合に必要な能力要

素であるといえる。

また、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性は、意図的に情報を収集するアセスメントを含む直接利用者とかかわる教育プログラムにおいて、利用者をありのまま理解し、その尊厳を保持するために必要な能力要素であるといえる。

次に、介護実習に関する教育プログラムにおいて社会人基礎力を育成する方法として推奨される教育内容について、以下の3つが考えられる。

(1) 課題解決型学習サイクルの繰り返し

課題解決型学習サイクルとは、学習者が自ら学習課題を設定し、自分の知識や諸能力を結集して課題の究明、探求、解決を図っていくという学習方法³⁾である。

表1に示す1日の実習における課題発見力(表1*1)と介護過程の展開のアセスメントにおける課題発見力(表1*2)から展開する流れに、共通する課題解決型学習サイクルが成立している。その流れは、考

表1 介護実習に関する教育プログラムに必要とされる社会人基礎力

分類	能力要素	内容／項目	実習前		実習中						実習後				
			実習目標の作成	オリエンテーション	実習の流れ			介護過程の展開			カンファレンス	自己評価	実習報告会	修了論文発表会	
					開始前	開始時	実習中	終了後	アセスメント	計画					実施
前に踏み出す力	主体性	物事に進んで取り組む力	○			○	○			◎	○			○	○
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力				○	○			◎	○				○
	実行力	目的を設定し確実に行動する力				○	◎					◎			
考え抜く力	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	① ◎	○	○		○	◎	*	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	創造力	既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい価値を生み出す力	○				◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	◎	○	◎		○	○		◎	◎	◎	◎	◎	◎
チームで働く力(チームワーク)	発信力	自分の意見を分かりやすく伝える力		○	○	○			○	○	○	◎	○	○	○
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聞く力				◎			◎	◎	◎	○	○	○	○
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力				◎				◎	◎	◎	◎	◎	◎
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係を理解する力				○	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力				◎				◎	◎	◎	◎	◎	◎
	ストレスコントロール力	ストレスに感じることも学びに変えようとする力				○	○				○	○	○	○	○

◎：特に必要とされる能力要素 ○：必要とされる能力要素

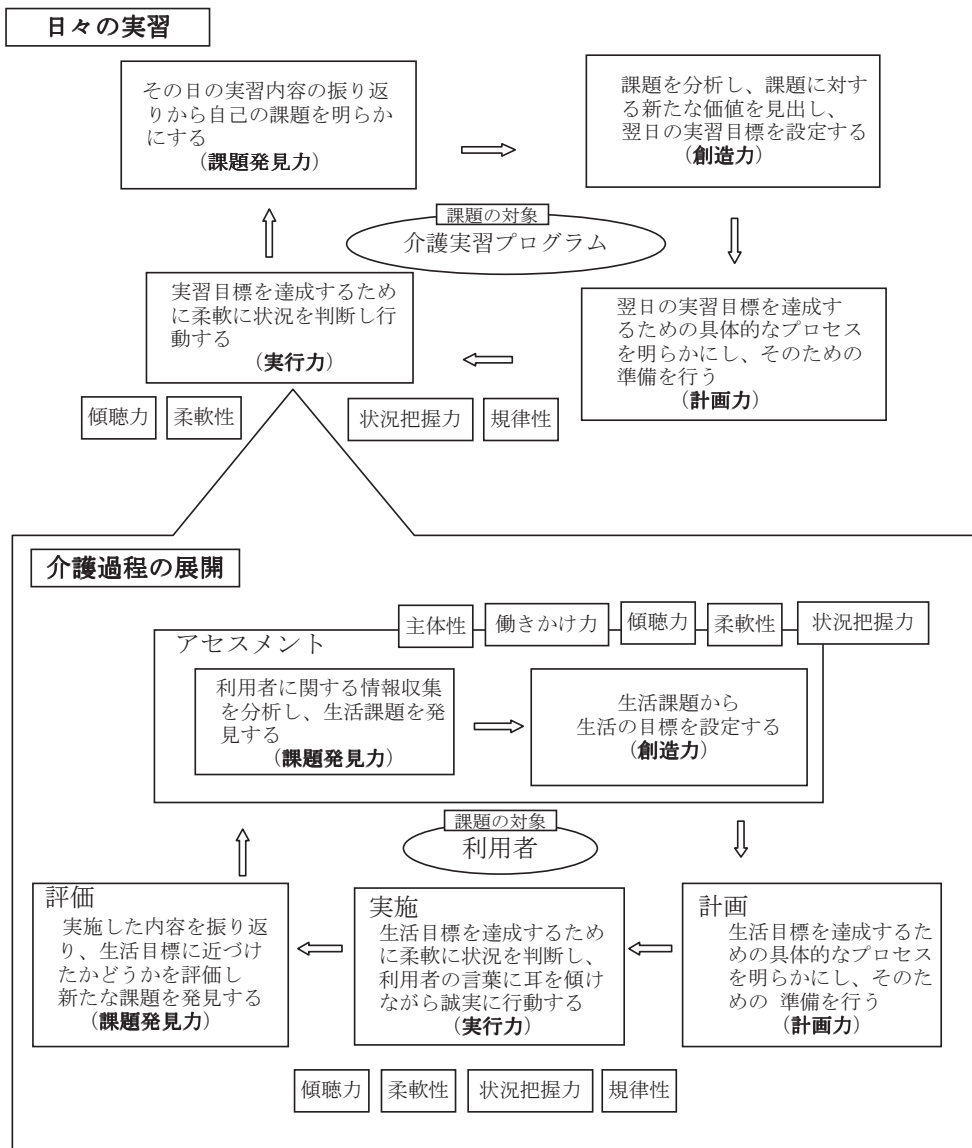
え抜く力（課題発見力→創造力→計画力）から実行力に展開し、再び課題発見力に戻り、繰り返される。さらに、その実行力の背景には、かかわる利用者を含むチームで働く力（傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）が求められている。以上の流れを図1に示した。

それぞれの課題の質は、①～⑤の課題解決型学習サイクルの繰り返しにより、与えられた到達目標の実践から、利用者の生活の質の向上へと変化し、介護観の確立へ至ると考えられる。

このような課題解決型学習サイクルが繰り返し展開される教育内容が、社会人基礎力の育成に大きく影響しているといえる。

また、表1において、課題発見力に示した①～⑤の

図1 課題解決型学習のサイクル



(2) 対象と目的の異なる課題解決型学習サイクルの二重構造

介護実習に関する教育プログラムには、実習を行うという学生自身の課題の達成と、介護過程の展開において担当利用者の生活課題の解決と実現との二重構造になっており、それぞれが課題解決型学習サイクルを展開している。(図1参照)限られた時間の中で、二つの課題を連動しながら、合わせて達成し、解決、実現することで、それぞれの能力がさらに育成され、向上すると考えられる。今井らは、大学において産学連携の地元の地域ブランドを企画開発するというプロジェクトをすすめ、学生の社会人基礎力の育成を行った中で、物理的な「場」と状況的な「場」の両方の存在の重要性を述べている⁴⁾。介護実習という物理的な場と介護過程の展開という状況的な場の二重構造となっている教育内容が、社会人基礎力の育成に寄与しているといえる。

(3) 人とかかわり生活の質を追求するという課題

介護実習に関する教育プログラムで与えられた課題は、治癒が見込めない病気や間近に迫る死に向き合いながらも、長い人生から培われた多様な価値観を持ち、時間ごとに変わるからだの調子と気持ちの変化を感じつつ、その中でも前向きにたくましく生きる高齢者や障がい者である利用者とかかわり、生活の質を追求することである。このような状態にある利用者にかかわるためには、その利用者の人生や命にまで真剣に向き合うことが求められる。

その向き合い方の過程は、生活歴、病歴を含む多項目のアセスメント内容や、それらを分析し、根拠に基づく生活の質を向上するための方法を考え抜く介護過程を中心とした介護実習に関する教育プログラムとして示されている。そこで必要な社会人基礎力を分析した結果、すべての能力要素が必要であることが表1よりわかった。これらのことから、人とかかわり生活の質を追求するという課題設定は、社会人基礎力の育成に有効的な教育内容であるといえる。

また、守本は、社会人基礎力という概念が定着し、言葉にすることで、これまでなら「なんだかわからないけれど失敗した」「とにかくすべてがうまく運んだ」

と言っていた場面で、漠然とした部分の分析ができることが大事である⁵⁾と述べている。これまで「真剣に」という曖昧な表現で向き合い方を表現してきたが、社会人基礎力の能力要素でその取り組みを分析することで、利用者に対する向き合い方を客観的にはかることができるという意義があることが理解された。

3. 結論

本稿では、本学の介護福祉士養成課程(1年課程)における介護実習に関する教育プログラムの具体的な内容と、社会人基礎力の関係を分析し、それぞれのプログラムに必要とされる社会人基礎力の検証を行った。その結果、課題発見力をはじめとする「考え抜く力」に意識して育成していることが特徴とわかった。また、育成する方法として推奨される教育内容は、①課題解決型学習サイクルが教育プログラムのさまざまな場面で繰り返されている ②対象と目的の異なる課題解決型学習サイクルが二重構造になっている ③人とかかわり生活の質を追求するという課題である、という結論を得た。

しかし、介護福祉士養成課程(1年課程)の実習に関する教育プログラムの具体的な内容と社会人基礎力の関係を、必要性の観点から分析し、その育成の特徴を述べたにすぎず、この教育プログラムが社会人基礎力を育成されたという客観的に数値化されたデータは取られていない。今後は、それらのデータに基づき、必要とされる社会人基礎力と、実際に育成された社会人基礎力の関係性や、各能力要素の育成の時期や順序についての検討も必要であるといえる。また、学生、関わる教員、実習施設の指導者の三者が社会人基礎力を意識しながら教育プログラムを実践する視点や、介護福祉士養成課程で履修する科目間の関連を意識したプログラム作りも早急に行うべき課題である。さらに、利用者の生活への満足度や質の追求によって、そのプログラムを評価できるしくみ作りを目指していきたい。

なお、本研究の一部は平成21年度私立大学経常費補助金特別補助・地域活性化貢献支援メニュー(地域共同研究支援)を使用して行われたことを付記する。

注・引用文献

- 1) 介護福祉士養成課程の養成校を卒業するルートは、
①高等学校卒業後2年以上の養成課程，②社会福祉士養成施設，保育士養成施設，福祉系大学等卒業後1年以上の養成課程等がある。本学の1年課程は，保育士養成施設卒業後1年以上の養成課程にあたる。
- 2) 諏訪康雄：社会人基礎力向上を目指して～経済産業省「社会人基礎力に関する研究会」
中間取りまとめを踏まえて～，関西経協61(3)，関西経営者協会，8（2007）
- 3) 小島邦宏・今野喜清ほか：「新版 学校教育辞典」
教育出版株式会社，p103（2003）
- 4) 今井久・伊藤洋晃：「社会人基礎力育成する現代ビジネス学部の挑戦」現代ビジネス研究
pp17-22（2008）
- 5) 守本憲弘：「社会人基礎力の定着と養成プログラムの構築」法律文化264，リーガルマイ
ンド，7（2006）

